

部落解放研究第47回全国集会

メインスローガン

今日の部落差別の現実を明らかにし、格差拡大社会のなかで深まる差別と貧困、社会的排除の克服にむけた実践交流と研究活動をおしすすめよう

日時 2013年11月6～8日(水～金)

会場 香川県高松市・高松市総合体育館他

〒760-0066 香川県高松市福岡町4丁目36番1号 TEL087-822-0211

集会規模 6,000人

参加対象 ①部落解放運動・研究にかかわる研究者・労働者・市民・宗教者・企業関係者・学生など
②部落解放をめざす行政・教育関係者および各級議員
③部落解放同盟の活動家をはじめとする部落大衆

参加費 4,000円(参加・資料費)

※2日目のフィールドワークに参加される方は、上記参加費以外に別途フィールドワーク参加費が必要です。

参加申し込みについて

- ①各団体で参加者の集約をしていただき、部落解放同盟の各都府県連合会にお申し込みください。
- ②個人等、一般で参加される方もお住まいの地域の部落解放同盟各都府県連合会にお申し込みいただくか、部落解放同盟中央本部にお申し込みください。
- ③参加・資料費の振り込みは、部落解放同盟各都府県連から一括で下記の口座へお振り込みをお願いいたします。

〈振込先〉りそな銀行 桜川支店 普通預金 0426304
部落解放同盟中央本部(全研)組坂繁之

参加割当

都府県	参加割当	都府県	参加割当	都府県	参加割当	都府県	参加割当
東京	250	静岡	10	和歌山	200	高知	200
埼玉	100	愛知	100	大阪	450	愛媛	30
群馬	80	岐阜	60	兵庫	400	福岡	400
栃木	60	三重	80	岡山	80	大分	80
千葉	30	富山	10	広島	200	長崎	30
神奈川	50	石川	10	山口	50	佐賀	70
山梨	5	福井	10	鳥取	300	熊本	80
長野	50	滋賀	200	島根	50	宮崎	30
新潟	10	京都	250	徳島	200	鹿児島	30
福島	5	奈良	250	香川	1500		

主催 部落解放研究第47回全国集会中央実行委員会

●中央実行委員会構成団体

公益社団法人全国人権教育研究協議会 部落解放中央共闘会議 全国大学同和教育研究協議会
社団法人部落解放・人権研究所 『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議
同和問題に取り組む全国企業連絡会 部落解放同盟中央本部 現地(香川)実行委員会

プログラム

1日目 11月6日(水) 全体集会(高松総合体育館)

- 12:00 受付
13:00 開会
13:05 主催者代表挨拶
13:10 現地実行委員長挨拶
13:15 来賓挨拶・来賓紹介
13:30 **地元報告** 「香川県における部落解放運動の歴史と課題」
岡田 健悟 (部落解放同盟香川県連合会顧問)
14:20 **記念講演** 「マスコミと人権」
大谷 昭宏 (ジャーナリスト)
16:50 事務連絡

2日目 11月7日(木) 各会場

- | | | | |
|------------|----------|-----------------|----------|
| 分科会 | 9:00 受付 | フィールドワーク | 8:40 集合 |
| | 10:00 開会 | | 9:10 出発 |
| | 16:00 閉会 | | 14:00 解散 |

3日目 11月8日(金) 全体集会(高松総合体育館)

- 9:00 受付
9:30 開会
記念講演 「『障害者差別解消法』制定の意義と今後の課題」
山崎 公士 (神奈川大学教授)
10:40 **記念講演** 「今日の日本社会を考える」(仮)
中島 岳志 (北海道大学准教授)
11:50 閉会

フィールドワークの申し込みについて

- ①フィールドワークの申し込みは、別紙「ご宿泊・お弁当・フィールドワークのご案内」をご参照いただき、お申し込みください。
- ②フィールドワーク参加費は、集会参加費とは別料金になります。
- ③フィールドワークの参加費(昼食・資料代含む)は、3,000円です。
- ④フィールドワークは、定員になりしだい締め切りますので、ご了承ください。

ご宿泊・お弁当申し込みについて

- ①ご宿泊につきましては、ランク別の料金設定になります。
- ②ご宿泊・お弁当の申し込みなど詳細につきましては、別紙「ご宿泊・お弁当・フィールドワークのご案内」をご参照いただき、お申し込みください。

大谷 昭宏

- 1945年 東京生まれ
1968年 早稲田大学政経学部卒
同年 読売新聞大阪本社入社, 徳島支局勤務
1970年 大阪本社社会部勤務, 警察担当
1972年 大阪府警捜査一課担当
1980年 朝刊社会面コラム『窓』欄担当
以後7年間にわたって『窓』欄を担当
1987年 読売新聞社を退社後, 大阪に事務所を設けてジャーナリズム活動を展開している

■主な出演番組

- テレビ朝日系列「スーパーJチャンネル」(月曜・火曜・水曜・午後4時53分)
TBS系列「ひるおび」(火曜・午前11時)
名古屋テレビ「ドデスカ!」(木曜・午前6時)
朝日放送「キャスト」(木曜・午後4時50分)
東海テレビ「スーパーニュース」(金曜・午後4時51分)
テレビ大阪「たかじんNOマネー」(土曜・午後1時)
東海ラジオ「 Morgen!!」(月曜・午前6時30分/コーナー出演)
ラジオ大阪「笑福亭銀瓶の銀ギンワイド」(金曜・午前7時/コーナー出演)
RKBラジオ「中西一清スタミナラジオ」(水曜・午前7時/コーナー出演)

2013年7月現在

■主な著書(共著を含む)

- 「事件記者という生き方」(平凡社)
「権力にダマされないための事件ニュースの見方」(河出書房新社)
「冤罪の恐怖」(ソフトバンククリエイティブ)
「法か、掟か」(ゴマ文庫)
「監視カメラは何を見ているのか」(角川新書)
「警察幹部を逮捕せよ! -泥沼の裏金作り」(旬報社)
「殺人率-日本人は殺人ができない!」(太田出版)
「死体は語る 現場は語る」(アスコム)
「権力犯罪」(旬報社)
「日本警察の正体」(日本文芸社)
「グリコ・森永事件~最重要参考人M」(幻冬舎)
「事件記者」(幻冬舎文庫)
「事件記者2」(〃)
「事件記者3」(〃)
「ささやかな少数意見」(マガジンハウス)
「サラリーマンの忘れ物」(〃)
「開け心が窓ならば」(解放出版社)
「警察が危ない」(朝日ソノラマ)
「新聞記者が危ない」(〃)
「春美16歳の日本」(〃)

山崎 公士

1948年 神奈川県生まれ

東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程単位修得。

国立国会図書館調査員、香川大学法学部助教授・教授、新潟大学法学部教授、同法科大学院教授、神奈川大学法学部教授を経て、2010年4月から同大学院法学研究科長。専門は国際法・国際人権法・人権政策学。

社会的活動としては、アメリカ・イェール大学法科大学院・シェル人権センター国際評議員、「企業と人権情報センター」（国際的人権NGO）国際諮問評議員等を勤めている。

■主な著書

『国内人権機関の意義と役割—人権をまもるシステム構築に向けて』（三省堂、2012年）

編著書に『国内人権機関の国際比較』（現代人文社、2001年）

『人権政策学のすすめ』（江橋崇と共編、学陽書房、2003年）

International Comparison of Anti-Discrimination Laws, 2006. 等

中島 岳志

1975年 大阪生まれ

大阪外国語大学でヒンディー語を専攻。

大川周明の存在を通じて近代日本の政治思想に興味を持ち、20歳の頃からR・B・ポースの生涯を追いかける。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に進学し、1999年からはじめてインドへ。ヒンドゥー・ナショナリストとの共同生活を通じて宗教とナショナリズムの問題を追及する。

インド独立運動の闘士を描く「中村屋のポース」で大佛次郎論壇賞。

現在、北海道大学公共政策大学院准教授。

■主な著書・共著

『ヒンドゥー・ナショナリズム—印パ緊張の背景』（中公新書ラクレ／2002年）

『中村屋のポース —インド独立運動と近代日本のアジア主義』（白水社／2005）

『ナショナリズムと宗教 —現代インドのヒンドゥー・ナショナリズム運動』（春風社／2005年）

『インドの時代 —豊かさの苦悩の幕開け』（新潮社／2006年）

『パール判事 東京裁判批判と絶対平和主義』（白水社／2007年）

『インドの時代 —豊かさの苦悩の幕開け』（新潮文庫／2009年）

『朝日平吾の鬱屈』（筑摩書房・双書zero／2009年）

『中島岳志のアジア対談』（毎日新聞社／2009年）

『ガンディーからの＜問い＞ —君は「欲望」を捨てられるか』（NHK出版／2009年）

『インドのことはインド人に聞け（COURRIER BOOKS）』（講談社／2009年）

『保守のヒント』（春風社／2010年）

『秋葉原事件 —加藤智大の軌跡』（朝日新聞出版／2011年）

司 会：山崎 鈴子(部落解放同盟中央本部)

[午前の部] - 歴 史 -

■テーマ

部落の闘いの歴史 ~全国水平社90周年を機に

講 演 「近世高松藩における被賤視民が担った役割」

山下 隆章 (香川県部落史研究会会員)

講 演 「高松差別裁判80年-事件の概要と現代-」

喜岡 淳 (香川人権研究所事務局長)

[午後の部] - 入門・時事問題 -

法人を活用した部落解放運動の模索

少子高齢化のなかで孤立や排除など、社会的困難を抱える被差別部落において、なんとかしたいという思いから、社会資源やネットワークなどを活かしながら、生活防衛やセーフティネット構築、雇用創出や人材育成などに取り組むNPO等の法人を活用した実践や発想などに学び、今後の部落解放運動の展開の可能性や方向性をさぐる。

実践報告 「地域の新しい居場所『交竜館』に込められた思い」(仮題)

特定非営利活動法人はっちぽっち

実践報告 「高齢者の見守り・支援を社会的事業に」

南川 健一 (部落解放同盟福岡県連合会)

■テーマ

部落実態調査が語るものと部落解放運動発の新たな地域の取り組み

■討議の柱

- ①日本社会全体の不安定化が叫ばれている中、部落の再不安定化が懸念されているにもかかわらず「法」期限切れ以降、被差別部落の実態把握のための取り組みが沈下してきている。しかしながらいくつかの自治体において「人権条例」などを掲げどこに、定期的な部落の実態把握や人権意識調査を通じた課題発見などが取り組まれている。
- これらの調査のうち、直近に実施された部落実態調査の報告からみえてくる課題と、問題解決のための方向について考える。
- ②近年、各地において、それぞれ工夫を凝らしたさまざまな「人権のまちづくり」の取り組みがおこなわれている。とくに、NPO法人や社会福祉法人などを設立した事業展開型の取り組み、すなわち社会的起業（コミュニティ・ビジネス）が各地で取り組まれているが、その手法のひとつとして、自治会を基盤にした社会的起業の取り組みから「人権のまちづくり」を考える。
- ③隣保館は、同和地区およびその周辺地域の住民を含めた地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発のための住民交流の拠点となる地域に密着した福祉センター（コミュニティセンター）としての役割を担っている。とくに、生活上の各種相談事業をはじめ社会福祉などに関する総合的な事業及び国民的課題として人権・同和問題に対する理解を深めるための活動をおこない、地域住民の生活の社会的、経済的、文化的改善向上を図るとともに、人権・同和問題の速やかな解決に資することを目的としているが、その具体的事例のひとつとして、香川県のいくつかの隣保館で取り組まれはじめた「100円モーニング」について紹介する。

司 会：松下 龍仁（おおさか人権ネットワーク）

[午前の部]

報 告 「鳥取県南部町部落実態調査」

南部町人権・社会教育室

報 告 「三重県伊賀市部落実態調査」

松村 元樹（反差別人権研究所みえ）

[午後の部]

報 告 「太陽光発電で地域イキイキ」

細田 勉（部落解放同盟兵庫県連合会）

報 告 「100円モーニングと隣保館」

富島 喜揮（四国学院大学教授）

合田 等（香川県隣保館連絡協議会会長）

報 告 「もったいない」を合言葉に～ふーどばんく OSAKAの取り組み

ふーどばんく OSAKA

■ 討議の柱

- ①2005年度から、就学援助の一部財源が交付金化されて以降、自治体によって準要保護の基準や支援内容に大きな格差が生じている。貧困が社会問題化した今日、子どもの貧困問題に対応するために、立法作業も含めた国の取り組みがはじまろうとしている。また、文部科学省も、家庭の経済状況を調査し、学力格差の解決にむけて取り組むことを決定している。一方で、政府は生活保護基準の見直しをおこなおうとしており、就学援助の引き下げなど、経済的に厳しい状況にある子どもたちの教育の機会が奪われることが懸念されている。
- ②2011年度から文部科学省が、「人権教育に関する特色ある実践事例」の公表をはじめた。各地の特色ある実践の成果や課題を全国的に共有することで、人権教育を基盤とした学校運営や教育内容の創造が広がっていくことが期待されている。当面は、全国の小中高・特別支援校の実践事例が蓄積されていくこととされており、こうした実践事例を様々な視点から建設的に評価し、全国的な人権教育の実践を高めていく。

司 会：安田 茂樹（部落解放同盟中央本部）

問題提起 「教育運動の当面する取り組み課題」（仮）

岡田 健悟（部落解放同盟中央本部）

講 演 「子どもの学びを保障する諸施策の現状と課題」（仮）

元井 一郎（四国学院大学教授）

行政説明 「特色ある人権教育実践の意義と課題」

文部科学省児童生徒課

実践報告 文科省「人権教育に関する特色ある実践事例」報告より

丸亀市立本島中学校

土佐市立戸波中学校・小学校

助言者：栗原 成寿（全国人権教育研究協議会）

部落解放・人権研究所 教育部会メンバー

■テーマ**部落解放をめざす人権啓発のあり方について検討する****■討議の柱**

- ①「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」(2000年)が施行、「人権教育・啓発に関する基本計画」が2002年に策定され、社会にも大きな変化が見られる中で、この間広がりを見せてきた部落解放・人権啓発について新たな方針を考える必要に迫られ、このたび、部落解放・人権研究所では、今日的な課題をふまえた「部落解放・人権啓発基本方針(第3次)」を作成した。この方針の普及と活用を目的に意見交換をおこなう。
- ②午前の部で提案された啓発のあり方について、午後の分科会では、すでに各地で実施されてきた意識調査結果にみる具体的な啓発のあり方についてパネルディスカッションをおこない、啓発の方向性について論議する。

[午前の部]

司 会：内田 龍史(尚絅学院大学講師)

**報 告】『第三次部落解放・人権啓発基本方針』(部落解放・人権研究所2013.3)策定をめぐる議論と
今後の活用に向けて**

上杉 孝實(京都大学名誉教授)

[午後の部] パネルディスカッション**意識調査結果からみる人権啓発のあり方について－同和問題にかかわる市民意識のいま－**

コーディネーター：内田 龍史(尚絅学院大学講師)

パネリスト：「姫路市・人権についての市民意識調査から」

阿久澤 麻理子(大阪市立大学大学院教授)

「奈良県若者の人権意識調査報告書から」

野口 道彦(大阪市立大学特任教授)

「松阪市市民意識調査から」

棚田 洋平(部落解放・人権研究所)

■テーマ**狭山事件50年の闘い****－第3次再審請求の現状と再審実現にむけた課題を明らかにする－****■討議の柱**

- ①狭山事件50年をさまざまな角度から考える。冤罪の真相、冤罪・誤判の原因を考えるとともに、再審制度のありかたを検証する。
- ②第3次再審請求の三者協議や証拠開示などの動きについて報告を受け、狭山事件の再審をひらくための取り組みを考える。
- ③さまざまな冤罪事件の実態を通して、冤罪・誤判を生み出す社会、刑事司法、メディア等の問題点を明らかにするとともに、冤罪・誤判をなくすための課題を考える。
- ④代用監獄や人質司法、検察官、裁判官のありかたなどの問題点を考え、誤判・冤罪をなくすための司法改革の課題を考える。
- ⑤取り調べの全過程の可視化、公正な証拠開示の法制化を実現するための課題、運動について考える。
- ⑥自由権規約など国際的な人権基準や国連の勧告、各国の司法制度に学び、日本における司法改革の課題を考える。

司 会：小野寺 一規（部落解放同盟埼玉県連合会）

報告・助言 松岡 徹（部落解放同盟中本部）

報 告 「狭山第3次再審請求の現状と課題」

中山 武敏（狭山事件再審弁護団）

石川一雄さんからの訴え（仮）（狭山事件再審請求人）

ドキュメンタリ映画「見えない手錠をはすすまで」予告編上映と報告

金 聖 雄（映画監督）

■テーマ**「今日の部落差別事件について考える」****■討議の柱**

- ①差別書込みや差別情報の氾濫など、インターネット上の差別事件、人権侵害の状況をふまえ、高度情報化時代における差別（事件）の実態と対応策を考える。
- ②差別糾弾闘争と人権侵害救済制度について考える。
- ③個人情報大量不正取得事件を通して本人通知制度の取り組み課題を考える。

司 会：北口 末広（部落解放同盟中央本部）

報告 「部落の地名を考えるー古絵図の取り扱いをめぐるー」

近藤 登志一（部落解放同盟東京都連合会）

報告 「週刊朝日差別報道をめぐる取り組み」

赤井 隆史（部落解放同盟中央本部）

報告 「個人情報大量不正取得事件の取り組み」

片岡 明幸（部落解放同盟中央本部）

報告 「香川県における差別事件の実態と取り組み」

岡本 俊晃（部落解放同盟香川県連合会）

第 7 分科会

会場 県社会福祉総合センターコミュニティホール

■テーマ

「人権侵害救済制度の確立にむけた今日的課題について考える」

■討議の柱

- ①さまざまな差別の実態から学び、実効ある人権侵害救済の制度を考える。
- ②国際人権諸条約などから、今後の部落問題解決にむけた取り組みの課題を考える。
- ③これからの人権侵害救済制度のあり方について考える。

司 会：和田 献一（部落解放同盟中央本部）

[午前の部]

報告 「人権侵害救済制度確立にむけた取り組みの到達点と今後の課題」

組坂 繁之（部落解放同盟中央本部）

報告 「国際人権基準から考える国内人権機関」

山崎 公士（神奈川大学教授）

報告 「ヘイトスピーチから考える日本の人権状況」

金 尚 均（龍谷大学教授）

[午後の部] シンポジウム「これからの人権侵害救済制度を考える」

パネラー 山崎 公士（神奈川大学教授）

金 尚 均（龍谷大学教授）

組坂 繁之（部落解放同盟中央本部）

和田 献一（部落解放同盟中央本部）

会場付近地図

全体会場・第1分科会・第4分科会

高松総合体育館 〒760-0066 香川県高松市福岡町4-36-1 TEL 087-822-0211

第2分科会 ホテルパールガーデン讃岐 (讃岐の間)

〒760-0066 香川県高松市福岡町2-2-1 TEL 087-821-8500

第3分科会 高松テルサ (ホール)

〒761-0113 香川県高松市屋島西町2366-1 TEL 087-844-3511

第5分科会 香川県教育会館 ミューズホール

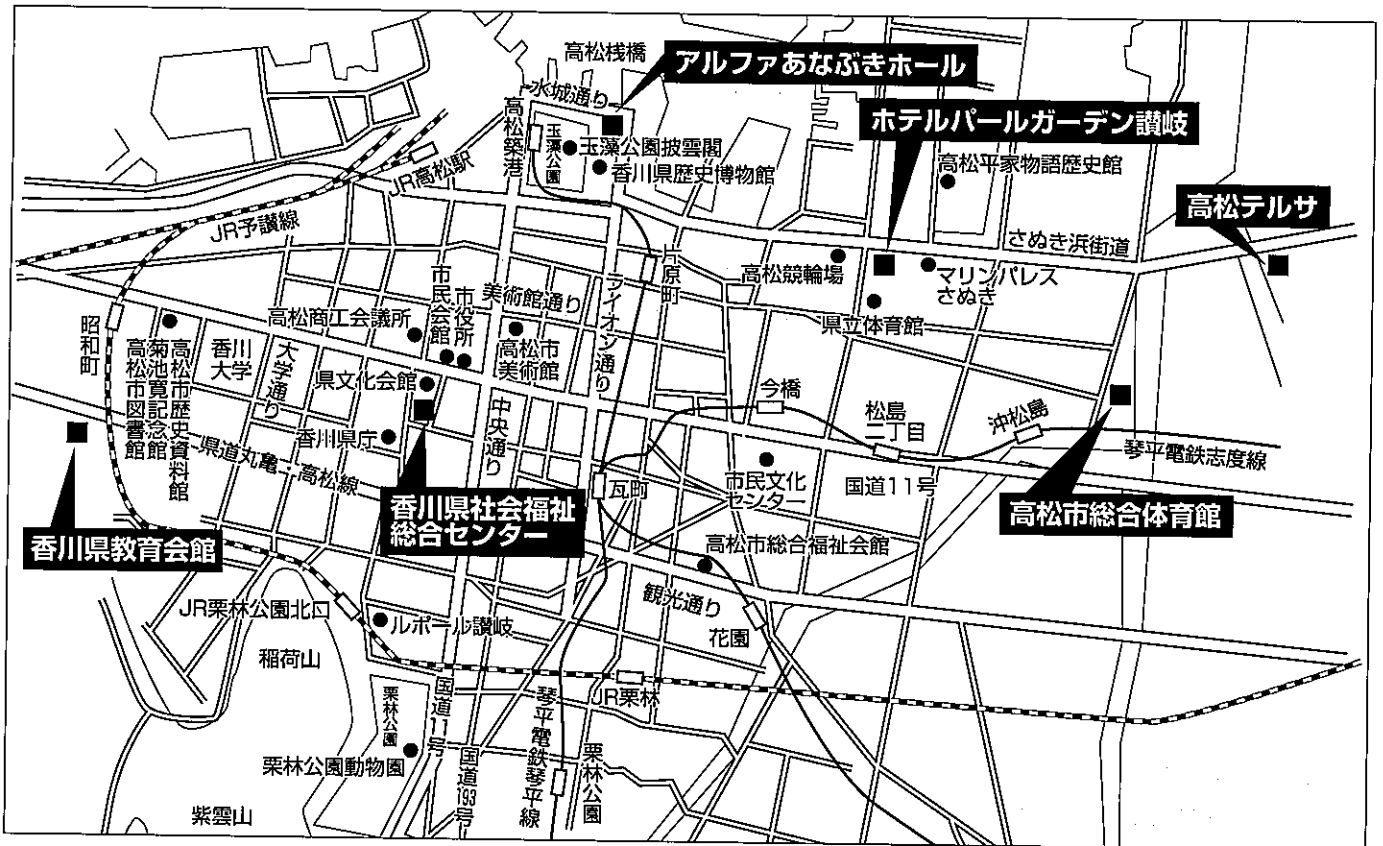
〒760-0004 香川県高松市西宝町2-6-40 TEL 087-833-0013

第6分科会 アルファあなぶきホール (大ホール)

〒760-0030 香川県高松市玉藻町9-10 TEL 087-823-3131

第7分科会 香川県社会福祉総合センター (コミュニティホール)

〒760-0017 香川県高松市番町1-10-35 TEL 087-835-3334



交通機関

高松市総合体育館

JR「高松」駅より車で約10分
琴電「沖松島」駅より徒歩、約3分(240m)

ホテルパールガーデン讃岐

JR「高松」駅より車で約5分
JR「高松」駅より、ことでんバス、朝日町線「ホテルパールガーデン前」下車すぐ
高松空港より車で約30分

高松テルサ

JR「高松」駅より車で約10分
JR「高松」駅より、ことでんバス6番バス停より「屋島健康ランド行き」「高松テルサ」下車すぐ

香川県教育会館 ミューズホール

JR「高松」駅より車で約15分
JR「昭和町」駅下車、徒歩約7分(560m)
高松空港より車で約40分

アルファあなぶきホール

JR「高松」駅より徒歩、約8分(640m)
高松空港より車で約30分

香川県社会福祉総合センター

JR「高松」駅より徒歩、約15分(1,200m)
琴電「瓦町」駅より徒歩、約10分(800m)

フィールドワークのご案内

「国立療養所大島青松園を訪ねて」

■目的

高松市沖にある大島。ここには国立療養所大島青松園があり、現在約80の方が生活している。絶対隔離策を推進してきた「らい予防法」は廃止されたが、今も差別は強く、回復者の社会復帰は厳しい。園は1909年に「大島療養所」として中国四国八県連合によって設立された。1941年に「国立らい療養所大島青松園」となり、1946年に「国立療養所大島青松園」と改称された。現在は人権学習などで島を訪れる人も多い。大島青松園を訪れ、入所者の方々や医師など関係者から、ハンセン病問題と人権問題について学ぶ。

■定員 80名（但し、定員になり次第締め切りますので、ご了承ください）

■参加費 3,000円（お弁当・資料代）
※別紙、お弁当申し込みはしないでください。全研参加費とは別料金です

■日程

午前8時40分 集合 高松港 大島青松園行 乗船場（高松棧橋のりば）
住所：高松市サンポート8番1号

午前9時10分 高松港 出発—大島青松園

午後1時20分 大島青松園 出発—高松港

午後2時 解散

■高松港への行き方

JR「高松駅」から徒歩5分
ことடன்「高松築港駅」から徒歩5分